

園より（1月） 子ども達が大よろこび！雪が降りました

雪がたくさんふりました。

本園の小さい子たちは園舎の前の雪だるまをみて、

『クリスマスツリーにいた！』『目が寝てる』『うんこドリル？』などなどいろんな表現が飛び出して感心したり笑ったり、雪かきをした雪山をすべり台にして段ボールそり遊びをして楽しみました。



分園のお兄さん、お姉さんはさすがに豪快に雪遊びをすること！一面真っ白に染まった園庭では、朝から子どもたちがとても楽しそうに雪遊びをしていました。最初は積もった雪の園庭にはじめて足跡をつけるときのドキドキから緊張の面持ちで、その後ズボッと雪にはまった長靴に雪が入って『つめた〜い』の一言で元気爆発！雪の上をぴよんぴよんとんで走り出しました。

それからというものの雪合戦をはじめたり、雪の掛け合いをはじめたり、寝っ転がったり、寝っ転がって泳ぐマネをして埋もれる子もいたり。雪だるまをつくったり、先生たちが雪かきついでにつくった『かまくら』に入ったりと、雪あそびを存分に楽しんでいました。園庭の裏もいつもと違って冒険心をそそられたようです。



また、いろんな発見もあったようで昨夜の帰りに雪を踏んだ足跡が凍ってそっくり足跡が手に取れたことに驚いたり、粉のような雪だったので服に粉がついたように見えたのも新鮮だったよう。子どもの目線とは、発見する力が大きくて接するたびに驚きますが、子どもの発見する力を伸ばすにはいろいろやら

せてみるといいのかもしれませんがね。発見するためにはいたずらや多少の危険は伴うものですが大人が『危ない！危ない！』を繰り返していたら子どもの発見する力は委縮してしまうかもしれません。保育園では、自分で見つける経験をさせたいと、人に迷惑のかからないおふざけは見守り、冒険や挑戦はこれ以上やったら本当に危ない一歩前まで見守って、できるだけ子どもにいろいろやらせてあげたいと思っています。

